

2022 新春トップインタビュー ゴルフ界の展望を聞く

日本の選手がプロ、アマとも活躍 JGAは振興策で新たな取組み



公益財団法人 日本ゴルフ協会 会長
竹田 恆正 氏

——21年は日本ゴルフ界にとつて有意義な一年だったと思います。振り返っていただけですか？

竹田 コロナで色々制限されましたがアマチュア競技でも前年はゼロでしたが21年は全て開催できました。3オーブンも予定通りできて観客も入られました。ただナショナルチームの活動は殆どできませんでした。国際試合の多くが中止・延期でしたので。

——やと11月にアジアパシフィックアマがドバイとアブダビで開かれ、男女アベック優勝しました。

——海外から見ると、日本が躍進

した1年でした。

竹田 それは間違いありません。ガレス・ジョーンズ氏が指導を始めた2015年からの凄く実績が上がりました。プロ入り後にも影響して、女子は凄じやないですか？男子だって、金谷拓実選手や中島啓太選手が非常に良いですね。選手だけじゃなくて、コーチングのレベルも上がったし、地区連盟でも予備軍が沢山あります。ナショナルチームとの相乗効果で、一気に良い方向になってきましたね。

——梶谷翼選手がまずオーガスタ女子アマチュアで優勝し、すぐ松山英樹選手がマスターズ優勝、US女子オーブンの笹生優花選手の優勝と畑岡奈紗選手の2位、それから東京オリンピックの稲見萌寧選手の銀メダル、凄かったですよね。

——コロナ禍でむしろ驚いているのはゴルフ場や練習場がお客さんで一杯になって、これははつきりいつて想像できなかったことです。

——ゴルフは外でするスポーツで、感染のリスクも低いということ、用具もよく売れているし、予期せぬ追い風となりましたね。

——松山選手は総理大臣顕彰も受

けました。

竹田 今までみんなが勝ちたいと思っていて、男子はメジャー優勝者もいなかったですからね。その最初がマスターズですから物凄くインパクトがありました。夢の舞台での優勝ですから、日本人皆が感動、感激しました。

——一方アマチュアの国際試合はコロナで残念ながら海外に行けませんでした。選手たちのレベルが上がってるし、22年は国際試合も多くなりますから期待して下さい。

——アマチュア資格規則が変わります。

竹田 ゴルフの場合、その特殊性もあってアマチュア資格規則が必要だったので、時代の要請もあり、抜本的な改訂、大幅な緩和がなされることになりました。

——特にゴルフは、規則を自ら守り、自己申告するという、一人一人の誠実さを前提とするスポーツで、アマチュアにも多くの制限を課してきました。ただ一方でそのような制限がゴルフの発展の足かせになっていたという部分もあります。これだけゴルフがグローバルなスポーツになり、興行としても発展し、特にSNSの発達によりそれ

らの制限を守ることが難しくなってきた。参加資格ひとつをとっても、オリンピックやアジア大会はプロアマ問わず、世界ランキングで出場が決まるし、よりオープンな参加資格が求められるようになっていきます。

——アマチュアでもスクラッチプレーでは10万円まで賞金をもらえるようになります。

竹田 確かにそうですが、新しいアマチュア規則においては、賞に関する規定はそれ程大きく緩和されたわけではありません。というのも10万円という制限はプロゴルファーの職域に大きな影響を与えないようにするためだと聞いています。今後も賞が無制限になったら、今以上に緩和されることはないのではと思います。

——アマチュアとしての参加資格を必要としない方にとっては、規則の限度額を超える賞を受け取ることが出来ると聞きましたか？

竹田 アマチュア資格というのはあくまで大会への参加資格ですから、アマチュアとして大会に出場するつもりがないのであれば、高額の賞を受け取るとは問題ありません。これは今までと同じです。

——ゴルフをやりたい方が増えています。

竹田 JGAでは、ゴルフの普及・振興を21年から重要事項に取り上げています。JGAは競技団体であることは変わりありませんが、まずはゴルフアートを増やすこと、ゴルフを幅広く色んな人にやってもらうことが重要だということで、定款まで改定しました。22年から新しい本部を設置します。初心者向けの動画を制作したり、各地区連盟やゴルフ関連団体が取り組んでいる普及・振興の施策を紹介したり、情報発信・旗振り役として色んな事に取り組んでいきたいと考えています。

——これまではゴルフサミット会議がありました。22年の新年会は引き続き中止になりました。

竹田 コロナの影響で集まるのが難しいですからね。サミット会議は元々、新年会開催のために集まった会議です。同じ業界にはいるけど、目的がゴルフ振興や競技選手育成ではない団体もあるわけで、これを一緒にして色んな政策を立てることは難しいのではと感じています。だから、あの会は新年会のための会とし、ゴルフの普

及・振興についてはそれができる団体に入ってもらい、JGAを本部にして行ったほうがいいのではという話しをしているところです。

——ゴルフ場利用税、公務員倫理規程もあるでしょうが。

竹田 もちろんこれからも運動は続けていきますが、視点を変えて攻めないといけないと感じています。これだけゴルフをする人が増えて、オリンピック競技にもなっているわけですし、ゴルフは地域振興にも、健康寿命にも大きく貢献しているのですから、専門家を連れてよく勉強し、今後の運動の在り方を研究しているところです。

——SDGsとかジェンダーとか、五輪以降かなり意識されるようになります。

竹田 ジェンダーに関しては、ゴルフ業界はまだまだですかね。女性役員や委員をもっと入れるというのはJOCも含めてかなり進んでいます。スポーツ庁の発行するガバナンスコードでは、女性役員40%というのが目標とされていますが、JGAでは現在のところ22%となっています。ゴルフ全体の中で女性ゴルファーの割合は18%くらいですから、当協会では、

まずは女性ゴルファーの数を増やし、それに連れて女性役員も増やしていこうと思っています。ゴルフ振興の中でも女性ゴルファーの増加策は大きなテーマになっています。

——環境問題はどうですか？

山中専務理事 ゴルフが持つ社会貢献機能の一つは環境保全だと思います。例えば農水省などとタイアップしてゴルフ場がどれだけ自然を保つために貢献をしているかをアピールする。世界のゴルフ界はサステイナビリティに取り組んでいますから、そういう情報も振興本部として発信する。お金をかけてやる振興策もありますが、NFとして、旗振り役としてきちんと情報を集めて発信することもゴルフ振興の一つだと思います。

——JGAは2024年に100周年を迎えるそうですが。

竹田 はい、100年史や記念式典、ミュージアムや殿堂のことも含めて考えています。また2024年は日本オープンを東京GC、日本女子オープンを大利根CC、シニアオープンは千葉CCC川間Cで開催を予定しています。

2022 新春トップインタビュー ゴルフ界の展望を聞く

ゴルフ場でも当てはまるSDGs ゴルフ人気を追い風にニーズ創出



一般社団法人 日本ゴルフ場経営者協会 理事長
高桑 耐氏

——今年の協会活動やSDGs活動を振り返ってもらえますか？
高桑 コロナによる移動制限などもあり総会・理事会などは開催しませんが少人数でした。残念ですが、計画事項の全部を行うことはできませんでした。

SDGs、廃プラ関係では、まだ少ないですが浴場のビニール袋を廃止したところや、有料化したところもあります。当コース（平尾CC・愛知）はまだ難しいところですが検討を進めています。SDGsの一環として伐採した木や枝をチップにして貯めて、バ

イオマスにするところもあります。当コースは落葉を一カ所に集めてコンポスト化して地元農家に提供しています。ゴルフ場は自然が一つの売り物ですから、そうした流れは徐々に来るでしょう。

——それで平尾CCも愛知県のSDGs登録をされた訳ですね。

高桑総支配人 「愛知県SDGs登録制度」に登録をしました。

木の伐採での環境整備は7番、女性・外国人等雇用は5番や10番など、ゴルフ場の事業活動の一つ一つをSDGsの経済・社会・環境の何番に当てはまるのだろうと整理しました。整理して表明することでゴルフ場、企業の活動を理解し、次の活動に繋がられるのではないかと思います。

——NGKだによりりますと、環境省は開発地（含ゴルフ場）の土壌炭素貯留量調査を開始し、協会が調査に協力しているとのことですが、ゴルフ場の温暖化防止機能が明らかにっていいれば良いですね。

高桑 ゴルフ場は広大な土地を利用しています。ゴルフ場の緑化機能については業界としてのPRも重要ですが、まずは地域の人達に理

解してもらおうことです。そのためには実際に来てもらうことが一番良いのでコロナで中断した地元への開放の再開も検討しています。

話は変わりますが、協会としては、女性ゴルファー増の立案をしました。また「ゴルフマジ！」などはコロナ下で利用者が増えました。

高桑総支配人 20歳と21歳は無料の企画ですが、当コースだけでも1日に1組平均入っているような状況です。今は入場者が増えて、お断りしている状況ですが。

高桑 本当に20代と30、40代の方も随分増えていきますし、当コース会員の名変入会も前年より増えています。40代が多い。もう一つ、会員のプレー回数が増えている。コロナ下での安全面もそうですけど、ゴルフの楽しさ、友達とか家族とか、楽しく時間を過ごせる、良い流れにありますね。

——今日は好天に恵まれた土曜日ですが、コンペの表彰式準備が各テーブルで行われています。

高桑 有難いことです。コロナで食堂の利用は減り、スループレーも多くなり単価は下がりましたが、アルコール自粛モードのなかでは0・5%の微アルこと「ビアリー」

が人気でした。料理持ち帰りの需要も続いています。色んな変化がありますね。

2025年問題など団塊の世代のリタイアが懸念事項ではあります、70代後半でも元気にゴルフをされる方も多く見受けられます。ゴルフが健康寿命の延伸に効果があることをPRすることもNGKの役割の一つだと考えます。現状、若い人達が増加していますが、ゴルフは仲間で作るから生涯続けてもらいたい。当コースは総支配人の発案で高校OBの大会、甲子園のようなベアの対抗戦を開いています。

高桑総支配人 スループレーは好評ですし、27日あるのでまだ続けていきたい。また具体的ではないですけどピギナー向けのスクランブルゴルフなど色んな仕掛けを考えています。それと毎回満員になるオープンコンペを月2回から3回に増やそうかと。高齢などでクラブ競技のハンディ戦はきつという方が、新ペリアの飛び賞ありの方が楽しいようですね。

高桑 オープンコンペは公式競技ではないのでキャデイ付きならばフェアウェイ乗り入れも可能です

し、殆どメンバーです。元々入場者の6割が会員ですし、会員が楽しめる企画です。実は参加費を千円値上げしましたが、それでも増えていてニーズがあります。会員向け練習場(月額3300円)は週末を時間制限としましたが、これで仲間が増えて9ホールプレーも増えました。コースまで30分以内の会員も多いので9ホールプレーも増えそうです。

協会の話に戻ると、共同購入によるコストダウンはもちろん、コロナが拡がり始めたころ入手困難だった時期に提案された消毒液は助かりました。お値打ち価格で出してくれ、随分役に立ちました。

20年4月に埼玉県がゴルフ場を休業要請対象とする動きがあったのですが、本部の方で動いて即座に撤回してもらえたのはゴルフ業界にとって大きかったですね。仮に対象となったら、その後大きく影響したと思います。

外国人労働者の件はやりたかったけど、できませんでした。法務省から外国人労働者の在留期間を5年以上に伸ばす話も出ていますが、ゴルフ場はまだ適用業種になっていません。コース管理、キャ

ディの人手不足は続いていますから、技能実習生受け入れの働きかけを再開したいです。

当コースはエンジニアとして2人のベトナム人を雇用しています。コース管理に関する殆どの仕事をやってもらっています。3月で丸3年ですのスキルもコミュニケーションも申し分ありません。もっと長くいられるようになりそうですから、教育も長期的に取り組めます。貴重な社員になりました。業界全体でも需要はありますね。

外食や宿泊産業の低迷でゴルフ場で働きたい方は増えていますか？

高桑 コロナ前と比べると求人・採用は増えていますが、少子化もあり特に若い世代の採用はまだまだ難しい状況です。職場としてのゴルフ場のイメージアップ、雇用条件などの緩和も必要かと思えます。当コースでは、省人化やマルチタスクにより、スタッフが週末にも休めるよう取り組んでいます。まだ月1回程度ですが今のところ好評です。

世界的なウイメンズゴルフデー(WGD)が6月1日に日本でも初めて平尾CCと千葉県の四街

道GCで開かれました。

高桑総支配人 当初は同イベント後に交流会も開いて欲しいとの打診でしたが、コロナで難しいので今回はゴルフだけでした。次回は本来のイベント趣旨に沿った大会にしたいですがコロナ次第です。

高桑 今、女子ゴルフが盛り上がっていますからムード的には良いですすね。

1年半前は入場者が減って、どうなるかと思ったゴルフ場も多かったはずですが、それに比べれば、今は爽やかなフオーローの風ですね。協会としてはコロナ対策ガイドラインを改定しました。今後も国の施策に対応していきます。

また、冬の間に「働き方改革のセミナー」を東京、名古屋、大阪、福岡の4カ所で開く予定です。多くの方のご参加をお待ちしています。

ゴルフ場には大きなポテンシャルがあります。ゲームとしての魅力はもとより、健康増進・仲間づくり・環境負荷の軽減など、これからの時代が必要とするものが揃っています。ゴルフ業界が今まで以上に社会へ貢献できる産業となることを期待しています。

2022 新春トップインタビュー ゴルフ界の展望を聞く

皆様に感謝。昨年度の戦略に上積みを図り、さらに「世界基準」を目指していきます



一般社団法人 日本女子プロゴルフ協会 (JLPGA) 会長
小林 浩美氏

——コロナ禍で無観客試合も多かったですが、2021年を振り返っていかがでしたか。

小林 統合された20年と21年シーズンとはたくさん選手の活躍して、とても嬉しく思っています。新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた時期にもかかわらず、予定されていたJLPGAツアー52試合(20年・14試合、21年・38試合)とステップアップツアー22試合(20年・8試合、21年・14試合)をすべて開催していただくことができました。大会主催者様をはじめ、ステップアップツアー共催者様、多くの大会関係者のご支援に大変感謝いたします。

係者のご支援に大変感謝いたします。

世界中に新型コロナウイルスの感染症が蔓延し、21年はどれぐらい大会を開催していただけたのか不透明な状況でしたが、3月の開幕戦「ダイキンオーキッドレディスゴルフツアーメント」は有観客で開催して下さいました。コロナ禍でも、1日上限1000人のギャラリィを入れてできるということを実現して下さり、とても感激でした。大会スポンサー様は政府の方針や各自自治体の感染状況や保健所など、大会開催に当たり検討することが多数ある中で、ギリギリまで開催を悩まれた大会もございました。

JLPGAツアーメントは、31都道府県で開催されましたが、自治体の方々が受け入れてくださり、現在も奮闘されている医療従事者の方々や保健所の皆様には大変お世話になりました。皆様のおかげで無事に開催できました。

そのうえで、たくさん選手の努力が随所に発揮し、毎週ワクワクドキドキする展開になりました。初優勝者は6人。複数回勝つ若い選手が増えたのが特徴でした。

また、有観客大会は15試合でした。

が、やはりギャラリィがいると全然違いますね。選手たちのプレーに勢いが増しますし、集中力も高まっている感じでした。現地で見ている、ショットの威力が増す感じが伝わってきました。スコアの出入りにも大きく影響していると感じましたね。

開催コースさんは、コロナ禍で感染予防しながらの作業は色々とお気遣いが多いと、大変だったと思います。その中で大会仕様の準備をしてくださったことは感謝の念に堪えません。大会ではテレビ放送はもちろんです。10月以降は当協会によるインターネット配信も始まって、リアルにゴルフ場様がメディアに映りますので、開催コースのグリーンキーパーはとても気が張ったことでしょうし、大会期間中はもちろんですが、年間を通してのメンテナンスは大変だったと思います。

さらにコロナ禍であり天候不順もあって、大変な苦労が二重にも三重にもなったと思いますが、グリーン完成度が高いコースが多かったです。やはり日常的にコース管理に力を入れていないと、大会の週だけ良いコンディションというのは難しいでしょうし、日頃から様々な努力をされて、大会に合わせて最高潮の

コンディションを作り上げてくださったことを本当に感謝しています。

協会運営も本当に大変でしたが、昨シーズンの予定されていた試合がすべて開催され、選手達に働く場を頂き、ファンの皆様に温かい応援を頂戴して私たちは幸せです。

—— 21年は国際大会でも若手の日本人選手のめざましい活躍がありましたね。

小林 ホント凄かったです。まず、6月に全米女子OPで笹生優花選手が優勝し、8月の東京オリンピックで稲見萌寧選手が見事銀メダルを獲得しました！

全米女子OPでは、畑岡奈紗選手とのプレーオフにも驚きました。日本人同士が世界メジャーで優勝争いする日がきたことに興奮しました。同大会には、日本人選手は過去最多の19人が出場しました。世界の舞台にどんな挑戦してほしいですね。また、レフェリーとして、初めて当協会から阿蘇紀子競技委員が参加しました。阿蘇さんはリオ五輪や全英女子OPでのレフェリー経験を持ち、国際経験が豊富です。英語も堪能です。出場した日本人選手達は安心してプレーに専念できたと思います。阿蘇さんはリオに続き、東京五

輪でもレフェリーを務めました。選手はじめ競技委員が世界の舞台でも大活躍しているのがJLPGAツアーの誇りです。

その東京五輪では残念ながらゴルフも無観客になり、運営面でも多くの困難があった中、日本の女子ゴルフの力を世界の舞台で発揮し、証明できたのではないかと思います。

13年から当協会では中期計画を立てて「世界で勝つ」を目標に、4日間競技を増やし、コースセティングの多様化など「ツアー強化」を掲げて取り組んでいます。世界基準の4日間大会を日常的に日本国内でこなすことで、選手は試合のペースや生活のリズム、戦い方などが訓練され、それが4日間60台を出し続ける力や爆発力につながり、日頃日本ツアーで出しているスコアが世界の舞台でも発揮できるのだと思います。日本選手のポテンシャルはすごく高いですし、いかに国内の環境を世界に近付けるかがポイントだと思います。

—— JLPGAとして2022年の展望や戦略を教えてください。

小林 昨シーズンは主に「世界に勝つ」を目標に「ツアー強化」やホスピタリティ強化、ファンサービス、

ゴルフの普及拡大とゴルフの楽しさの訴求、そして、当協会によるJLPGAツアー一括インターネット配信」等を行っています。22年もツアーの価値を最大限にするために、継続して注力していきます。

選手は「さすがプロだね」という技術力はもちろん、社会性や個性も大事です。新人選手には一般企業と同様に新人教育を行い、22年で26年目になります。最近SNSの使い方やコンプライアンスなど、時代や社会環境変化に合わせたセミナー内容も取り入れています。また、シード選手はじめ、大会出場予定選手を対象とした選手セミナーも専門家の先生方のご指導のもと開催予定です。特に、前夜祭マナーや立ち振る舞い、プロアマなどの会話力など、新人セミナーで一度教育を受けたものが主になります。

今後JLPGAトーナメントでは地上波放送、BS・CS放送は大会主催者様のご意向に沿ってまいりますし、当協会によるネット生配信も力を入れます。生で優勝争いをご覧になって頂き、ゴルフに興味を持ってくれる若い方が増えて、ゴルフ人口の拡大につながることを期待しています。また組織として社会に貢

献するのは当然ですので、SDGs関連の取り組みも始める予定です。

トーナメントでのセッティングもさらに幅広く行いたいと考えていますが、これはゴルフ場さんの協力なしには実現できません。やはり60台を3日間なり、4日間出し続ける力をさらにつけることで、世界で活躍できます。米国では、10アンダー以上のスコアが20人以上並ぶということとは珍しくありません。これはセッティングが易しいとかではなく、60台を出し続ける力を求めています。この辺りを特に注力していきたいです。季節ごとの芝の強弱や芝目が強い・弱い、グリーンが速い時と止まる時、硬さなど、組み合わせをさらに増やしたセッティングを年間通して行っていきたいです。これらにより、選手の技術の引き出しがより増えていくでしょう。

最後になりますが、22年はまだどのような情勢になるか未知数ですが、引き続きしっかりと感染予防を行い、開催コースさんにご協力を仰ぎながら、選手と協会が一体となって、大会スポンサー様やファンの皆様に喜んでいただけるように一つずつ努力してまいります。